

授業科目名	ドイツ語中級Ⅱ	担当形態	演習		
		開講学期	秋学期		
担当教員	越智 フェリシタス	単位	1	年次	2

＝授業のテーマ及び到達目標＝

春学期に引き続き、ドイツ語基礎で習得した文法知識をもとに、日常生活に役立つ実践的な会話のパートナー練習を繰り返すことをとおし、表現力と語彙力が身につくことを目標とします。さらに細かなニュアンスの違いが理解でき、またそれを表現できるようになることを目指します。実際にドイツに行った場合でも、ためらわずドイツ語を話せるようになる自信と能力を養います。同時にドイツと日本における文化の違いを視野に入れた情報を得ることで、異文化理解への洞察力が習得されます。

＝履修の条件と学習の方法＝

春学期の授業と基本的には同じ。会話を高める第一歩は、躊躇せずにドイツ語を声に出し、それを楽しむ姿勢が肝要です。授業時間は限られているので、各自家で文法の復習や短い会話を暗記することは必須条件です。さらに、文字に頼らずドイツ語を使って積極的に話すことが授業への参加条件です。リアルタイムで報道されるドイツに関する興味深いテレビ番組や新聞記事などがあれば、授業で紹介してもらい、それをテーマに会話を発展させます。

＝授業の概要＝

授業の概要は前期に引き続き次の通りです。授業の冒頭で必要な文法説明を行います。次に受講生各自に、その課のテキストを日本語に翻訳させます。その後、テキストを声を出して読み上げ、クラスの一人一人に発音させます。以上を終えた後に、教科書の練習問題を行います。授業の最後には、その課で学習した会話を、各自の日常に適合させた形でペア練習などをさせ、ドイツ語の運用と表現能力を養います。

＝授業計画＝

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認
- 2回 オペラ見物、芝居演目：動詞の三基本形・過去形・現在完了形
- 3回 チケットを買う：前置詞と代名詞の融合型
- 4回 ドイツ鉄道の旅：分離動詞・時刻表現
- 5回 駅のプラットフォームにて：非分離動詞
- 6回 ホテルのフロントにて：形容詞の格変化・日付の言い方
- 7回 バイエルンとプロイセン：比較の表現
- 8回 前半のまとめ・ドイツ人の生活を描くドキュメンタリー映画鑑賞
- 9回 医者診察：再帰代名詞と再帰動詞
- 10回 ドイツの学校制度：受動態
- 11回 ディスカッション（賛成、反対、意見を聞く）：接続法Ⅱ式
- 12回 地球温暖化について：接続法Ⅰ式
- 13回 手紙の書き方：定関係代名詞、不定関係代名詞
- 14回 ベルリンのファッション：過去完了形
- 15回 秋学期のまとめ・復習

＝テキスト（必携）＝

書籍名：はじめてのドイツー使えるドイツ語表現

著者名：河合節子 他

出版社：三修社

出版年：2013年

価格：2400円+税

ISBN978-4-384-12275-6

＝参考書・参考資料（必携）＝

書籍名：アポロン独和辞典

著者名：根本道也・成田克文他

出版社：同学社

出版年：2016年

価格：4200円+税

ISBN978-4-8102-0006-5

＝成績評価の方法と評価の基準＝

授業中の平常点と学期末に行う筆記試験を、以下の割合で総合的に評価する。

- ・平常点（50％）の内訳：毎回の出席状況：30％、授業に意欲的に貢献しているか：20％、ドイツ語の発音、アクセント、イントネーションの正確さ：20％、ドイツ語による質問を正しく理解し、それに答えられる力：30％
- ・学期末筆記試験：50％

＝その他＝

特になし。